
前菜はきみの心臓でございます

麦子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

前菜はきみの心臓でございます

【コード】

N1085P

【作者名】

麦子

【あらすじ】

「わたしの賞味期限は、あなたが決めてください」
そして彼は、笑顔で彼女の心臓を飲み込んだ。

(前書き)

全体的に病んでいます。

あたたかくて柔らかくて包み込むようなやさしいかたまり。それがわたしの持つ恋人に対しての“愛情”のイメージだった。だけど現実の愛情は、彼から貰う愛情の形は、不安定で分かりにくくてそれでいて時々冷たくてほんの少しだけ歪んでいる。

いつからだろう。

そんな彼の愛情を包み込んであげたいなんて思うようになったのは、いとおしいと思うようになったのはいつからだったんだろうか。

あたたかくて柔らかくて包み込むようなやさしいかたまりを、ずっと相手に求めていたけれど、今は彼に求められたいと思っっているわたしがいる。このきもちも、成長の証？それとも、何かズレてきている証拠？

「立てよ」

冷たくわたしを見下す彼の眼差しには怒りとかなしさと1ミリの愛が見えた。ハサミではっさりと切られた髪が足元にバラバラと落ちていく。彼が以前綺麗だと褒めてくれた髪は彼自身の手によって無惨にも切られてしまったのだ。短くなったわたしの髪を撫でながら彼は、うっとりとした表情で「こっちの方が似合ってる」と囁いてくれる。まるで彼の声は蜜のようだ。どこまでも甘くて深い。

「でも、まだだめだ。まだ、足りない」

だいすきな彼の指がわたしの頬に触れる。ねえ、どうしてそんなにかなしそうな、つらそうな、心臓を誰かに支配されているような顔をしているの。

彼は、答えの代わりに、わたしの頬にじわじわと爪を立てていく。

「どうしてだ」

「どうして、髪を触らせたりしたんだ」

「俺以外の手に触らせるなって、あれほど約束したのに」

「どうして、どうして、どうして！」

深く深く、爪痕がきざまれていく。彼は、駄々をこねることものように喚き叫んでいる。わたしは、人形のようにからだをぴくりとも動かさない。

まるでおままごとだ、と誰かが指をさして笑っているような気がした。だけどすぐに、また誰かがわたしたちの耳を塞いでくれる。聞かなくていいよって、見なくてもいいよって、言ってくれている。

「ねえ、わたしはもうあなたのものなんだよ」

泣き喚く彼に近付いて、震える手を自分の心臓の位置に導いてあげる。髪も、手も、足も、目も、口も、鼻も、全部、わたしの全てはあなたのもの。それは未来永劫変わらない。だから、そんなちっぽけな嫉妬に支配されないで。それでも不安なら、わたしに手錠をかけて部屋に閉じ込めたっていいのよ。ねえ、聞こえるでしょう？わたしの心臓の音。この心臓だって、あなたのものなのよ。好きに使

つてもらっても構わない。どろどろに甘やかして煮込んだっていいし、ぐちゃぐちゃに切り刻んで廃棄してくれてもいい。
あなたが全部、決めて。

「お前はそれを証明できるのかよ」

「できるよ」

「どうやって」

そっと、触れ合うだけのキスを試みさせた。

瞬きを何度か繰り返した彼は、笑いながらわたしの前髪を鷲掴みにして、そしてまた蜜のように低くて甘い声を、誘惑に溶けた蝶の耳元で囁くのだ。

「まだまだ、足りない」

鳴り止まない拍手のどこかで「幕を下ろせ」、と誰かが叫ぶ。でも、また誰かが「アンコール」と大きく手をたたいてくれるから、何度でも繰り返し返そう。彼が満足するまで、何度でも何度でも。

終わらせたくないよ、と彼が泣いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1085p/>

前菜はきみの心臓でございます

2010年11月24日04時29分発行